

政治断簡

編集委員 佐藤武嗣



首相の「胆力」見せてほしい

どう振る舞うべきか。日本を取り巻く外交・安全保障環境をみると、極めて困難な事態に直面していると最近、ひしひしと感じている。

そんな中で興味深い話を聞いた。「逆境の克服とリーダーの胆力」と題する講演で、

松下政経塾副理事長の神蔵孝之・イマジンア会長が「中国が強大な力を誇り、朝鮮半島が政治的に揺らぐ時期は、日本の歴史の変わり目となってきた」と指摘している。

権勢を振るった唐の時代、朝鮮半島は百済や高句麗が滅亡するなど混乱した。それに動じず、「日本は法治国家だ」と国内外に宣言する大宝

律令制定に尽力し、平城京への遷都を成し遂げ、「倭」から「日本」への転換を図る戦略を着々と練り上げた藤原不比等注目すべきだといふのだ。

神蔵氏は財政にも言及する。第2次世界大戦で、日本の政府債務残高はGDP(国内総生産)比200%超に跳ね上がった。現在の日本の財政事情はこれをしのぎ、約240%。「1千兆円ほどの国債という幻の果実の下にいな

がら、私たちに緊張感がない」と警鐘を鳴らした。藤原不比等の時代と同様、

中国は経済的にも軍事的にも台頭した。朝鮮半島は北朝鮮の核・ミサイル問題や日韓関係の悪化などで揺れている。さらに、唯一の同盟国として頼ってきた米国は「リベラルな国際秩序形成」を放棄し、

米国第一主義にひた走る。トランプ大統領は、対日貿易が「不平等」だと、来月の日米貿易交渉に手ぐすねを引く。次の駐留米軍経費負担の協議をめぐり、大幅増額を水面下で日本に要求している。

ある外務省幹部は誇張を交えて、日本の今後の選択肢を四つ挙げた。①米国に徹底的にこびへつらう②中国との関

係を重視して尖閣諸島などを手放す③防衛費を5倍にする④核兵器を保有する――。米国の要求を丸のみし、防衛費の大幅増に踏み切れば、債務はさらに膨らむ。かといって尖閣の放棄や核保有も政治的に極めて困難だ。

省庁の縦割りを解消し、日本の総合的な外交・安保戦略を練るため、2014年に創設したのが、国家安全保障局(NSS)。だが、最近是对ロシア政策で安倍晋三首相とNSS幹部が対立し、不仲説も漏れる。政府関係者は「経済産業省出身の官邸官僚と外務省との相互不信が深刻だ」と明かす。

自民党内から「安倍4選」の声も出始めた。同党議員は

「トランプが来年の大統領選で再選されれば、『彼とゴルフできるのは安倍しかない』と訴えられる」となんとも悠長に語る。

相手の顔色を窺い、F35戦闘機の大量購入で対米関係を一時しのぎし、理不尽と思っても物も言えないのが「したたかな外交」なのか。それは「接待ゴルフ」に過ぎない。

米中は安保と経済を絡めた外交を展開する。日本外交のかけ取りが難しい今、政府内の主導権争いにかまける余裕は日本にない。首相には複眼的な戦略を主導する「胆力」をぜひとも見せてほしい。

◇ 「政治断簡」は今回で終わります。ご愛読いただき、ありがとうございます。ごさいました。